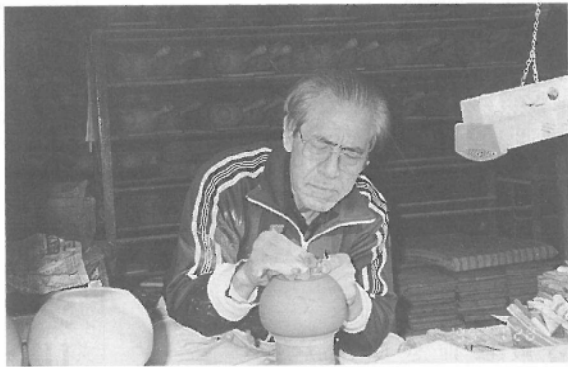


急須の生地づくり50年



わがまちの誇り 笹岡嘉久造さん(万古町)

伝統産業の四日市万古焼を支える優れた職人を顕彰する「伝統産業技術マイスター」に、技術保存と後継者育成のため市が、昨年度に新設された認定制度の最初に選ばれ、表彰されました笹岡さんをお訪ねしました。

祖父の代から続く職人さん。十六才で家業の生地作りを始められ、惜しくも空襲で父親を亡くされ、その後、他の工場で十二年間の修業も含め、五十年もの永い間「生地づくり」に頑張ってきました。

一步仕事場へ入ると、ところ狭

マイスターとはドイツ語で優れた職人や、歌手などに贈られる称号で「名人」とか「親方」などの意味があります。

しと急須の生地が棚に並べられ、土から製品になるまで全部手作業とのこと。ロクろをまわされる笹岡さんの傍で、妻の和子さんが細かい作業をされていて二人三脚とは、まさにこの事でどちらが欠けても仕事が成り立たないと言われ、夫婦の仲むつまじさがにじみ出ていました。

すばらしい技術とお人柄の笹岡さんに大きな拍手を贈ります。



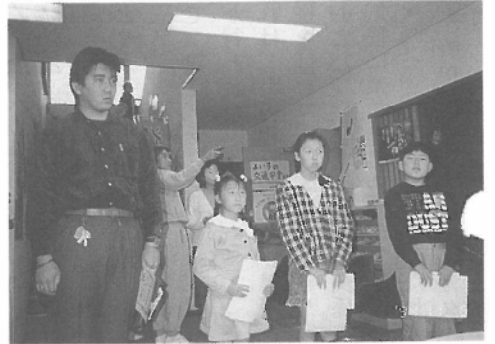
初の万古焼『伝統産業マイスター』に

(平成六年四月十三日)
四日市市長表彰

わたしたちの街のエキスパート



▲桜まつりの写生大会 4/16



▲国際家族年 絵・作文 11/6



▲第3回ウォークラリー大会 11/23



▲第6回海蔵川マラソン大会 2/5

各種イベントで
表彰されたみなさん